

1—36

1 (表紙)

元禄七歳

江戸諸事控

甲戌二月吉日

2 (白紙)

3 (白紙)

4 (白紙)

5

六年以前巳ノ歳ニ村川市兵衛被参候

其節之寺社御奉行様坂井河内様

本田紀守様御□者久瀬出雲守様

右御三人寺社御奉行被成候節、六月

廿八日ニ御目見被仰付候

6

九右衛門十年前以前貞享二年丑ノ五月

江戸へ致参府、其節之寺社御奉行衆

水野衛門太夫様坂本内記様本田

阿波路様右御三人様かと寛申候

御目見ハ五月廿八日ニ被為仰付候

7

一 先年九右衛門舟朝鮮国しやん切へ流レ申候ハ

寛文^八七年^{午ノ}申^年ノ歳流レ申候、当年迄廿九年ニ

成申候、其時々一卷之書付有之候

元禄七戌年参候控

一 戌三月十三日ニ江戸へ参府仕十四日五日

■^(破損) たな坏かり十六日ニ志摩殿御内

小谷助兵衛殿^江今日参候と申手紙遣候

得ハ、明日罷出候様ニと被申翌十七日ニ

8

志摩殿へ罷出候得ハ其晩直ク御料理

■^(破損)

下委細之儀ハ御聞役人衆へ申達置候

(破損)

■ 御聞役人衆御兩人と相談仕候様ニと被

仰候、万々御差図被遊可被下候由被仰候

御献上物其外御老中様方寺社御奉

行衆^江之御進物もかろく御差図可被

仰付由被仰候、御聞役人衆^江参候得ハ、吉田

平馬殿被仰候ハ寺社御奉行衆へハ御同道

可被成由被仰候

一 十八日ニ吉田平馬殿御同道いたし御月番衆

御聞役人

9

戸田能登守様^江罷出御内古後善太夫殿

と申仁ニ御近付と成、能登守様御留守故明日

罷出候様ニ善太夫殿被仰候ニ付、翌十八日ニ

拙者計罷出候、御献上物も存寄^ニ書

付持参致候様十七日ニ被仰候故、十八日ニ右之

書付持参致候得ハ、此書付之内^ニ而干鯛可然と

被仰候、能登守様へも此方より極候^而御目懸

(破損)

■ 可然と善太夫殿被申候間、拙者儀不案内

(破損)

■ ニ御座候間可然御差図被下候様ニと申候

得ハ干鯛弥可然存候由被申候、廿三日ニ御寄合

有之候間廿三日之八つ時分ニ罷出候て

10

御目見より内ニ能登守様御目懸置候

^而可然候との事候、本田紀伊守様松浦

壱岐守様へも右之通り能登守様御月

用番故

一 十九日ニ本田紀伊守様松浦壱岐守様へ参候

様ニと吉田平馬殿より御差図有之候、則口上書

被遣此口上書之通り申様ニと被仰被遣候、則同日ニ

右御兩人様へ参右之通り申上候、御兩人様共

御留守^ニ而申置帰り、御取次衆御長^ニ留置御

帰り次第^ニ可申上由被仰候

11

一 同日ニ老岐守様御内稻垣^{いな}五良右衛門殿と申御役人^ニ出

合御尋候ハ竹嶋^江国本^{米子}より渡海海路何程在之候

かと御尋候、拙者返答ニ申候ハ国本米子より叡隱岐

国迄所^ニより五十里所^ニより三十里も御座候、又隱岐^江国より

竹嶋^江ハ百里程も可有御座かと舟頭共右^ニ申伝候

と申候、又国本^ニハ殿様より御心付有之かと御尋候

拙者返答何之御心付も無之と申候、国本^ニハ町年

寄役儀仕候かと御尋拙者返答、役儀仕候時も

御座候又不仕時も御座候、相役有之かと御尋候

成ほと相役御座候と申候、又御当地^江参候^而ハ刀さし候

かと御尋候、さし不申と申候、米子^ハいか様成所^ニ候哉

12

御尋候、米子と申は^(羽力)□城^ニ御座候、御城代^ニ何れ

■御座候哉と御尋被成候、城代と申^ニハ無御座候
伯耆守殿家老^ニ荒尾大和殿と申御預り^ニ候

と申候、大和殿と申ハ荒尾志摩殿よりハ大身^ニ候哉
と被申候、成程志摩殿より大身^ニ候と申候何かと

こまかに御尋候故首尾見合いとまこい致罷帰り候
吉田平馬殿へ参候得ハ御屋敷^江御出候故直ク^ニ

うらノ御敷台迄参御目^ニかゝり、右之通り

申候、殿様^ニ御客様在之候^ニ付左藤玄知

右三人御坊主衆^江近付^ニ成り置候様^ニ

13

被仰平馬殿御引合^ニ近付^ニ罷成り候、さて平馬殿

被仰候ハ、阿部四郎五郎殿^江持参物可然様^ニ御差

図被成可被下由被仰候、忝と申罷帰り候、廿日ハ隙

廿一日^ニ平馬殿^江参右ノ御差図可承と存参候

得ハ未御了簡無之由、明日相段致置可申候間

明日罷出候様^ニと被仰候

廿二日ノ朝参候得ハ昨晚高木太左衛門殿伊庭

■左衛門殿杯御相段被成書付被成置由^ニ則

御書付被遣候、是^ニあり、然共四郎五郎殿之儀ハ

根本儀^ニ其上京都^ニ調参候故此方之

14

書付之通りニ仕候

廿三日ニ戸田能登守様^江参上仕御目見仕候
能登守様被仰候ハ竹嶋^江ハ拙者共直ニ渡り候
哉と御尋被遊候、拙者返答ニハ竹嶋^江ハ先
祖共より渡り不申候、舟頭共計渡シ申候と申候
去年ハ朝鮮人渡り居候か前々より渡り候かと御尋候
拙者返答ニ終ニ朝鮮人渡り候事ハ無御座候と申
上候、当年も渡り候かと御尋被遊候、当年之儀ハ
未知レ不申由申上候、是迄ノ御尋^{ニ而}候
同日能登様より帰りニ吉田平馬殿^江寄候得ハ御

15

留守^{ニ而}御内傳右衛門と申おとなニ右之通り申置候
さて又左藤玄知^江金三步持参仕候様ニと書付
在之候故前々ハさらし式疋ツ、持参仕候、然共
六年已前村川市兵衛参候時^者足袋
五束ニ炮百五十貝程持参仕候由、又鈴木
道守同守永^江ハ足袋五束つゝ持参仕候
由此度拙者召つれ参候家来六年^前已前
村川市兵衛召つれ参候者右之通り申候、此段ハ

(破損)

■可仕候哉、金式歩程^{ニ而}ハいかゝ可有御座候哉

右之段御帰之節尋給候様ニと傳右衛門^江頼置

16

罷帰り候

御老中様方柳沢出羽様牧野備後様

若御年寄様方^江も御目見より内ニ先々

より罷出候と■[■]吉田平馬殿^江申候得ハ、此
度ハ御目見より内ニ出候事ハ不入候、御目見
過候て乍御礼其月ニ無残廻り候様ニと被仰候
此段十八日廿日両度申候得共右之通り被仰候
十八日^者戸田能登守様へ吉田平馬殿御使者拙者
も始^而罷出候時ニ平馬殿被仰候ハ時ふく拝領

17

仕候事弥々左様ニ候かと御尋候、拙者返答ニハ此
段自是可申上所ニ御尋^{ニ而}御座候、其段ハ六年

已前村川市兵衛参上仕候節ハ時ふく拝領
不仕候、先祖共より御拝領之時ふくとて代々
市兵衛拙者両人手前ニ所持仕候故、去年
左様書上ケ候と申候、左候ハ、今日其儀
能登守様江申上候筈ニ候得共申上られ間布候
志摩様江御相段可被成由平馬殿被仰候
其拝領ノ時ふくと申ハいかゝ候哉と平馬殿御尋候
故拝領ノ時ふくと申ハのしめニあおいノ

18

御紋付ニ而御座候と申上候、左様ニ而在間布候
御紋付ノ拝領と申ハ御大名様方ならてハ
無之事と平馬殿被仰候、拙者返答ニハ左
様ニ而御座候か、稔と覺不申と申上候
同日ニ平馬殿被仰候ハ、若寺社御奉行様方ニ而
時ふく拝領之儀御尋被遊候ハ、六年已前
村川市兵衛参上仕候節ハ拝領不仕候、先祖共より
拝領之時ふくとて代々持来り候と返答
致候様ニと被仰候、竹嶋之儀御尋被遊候ハ、
ミち蛇より外ニハ何も無御座候、竹木も無御座

19

と去年申上置候間其通りニ申様ニと被仰候
時ふく之儀ハ只今左様之儀申上候得ハ
殿様御無念ニ成候と被仰候
右之一卷書落シ今日書申候

一

十七日ニ始而罷出候節、平馬殿江拙者申候ハ
去年之御紋之御尋之儀ハいかゝ成り候哉
相尋候得ハ、平馬殿被仰候ハ、か様之儀ハ先祖
共より立来り候と申上候様ハ別条無之事
と被仰候、去年申上候も先祖共より立来り

只今ハ子末ニ罷成候得ハ焼失仕候故申上候

20

其上先祖共之儀只今ハ覺不申と申上候
間其通り心得候様ニと被仰候

右書落シ今日書申候

一

廿二日ニ阿部四郎五郎殿江罷出候

- 一 廿三日ハ前ニ書申候
- 一 廿四日ハ大久保八郎左衛門殿阿部忠右衛門殿左藤
玄知森田伴六殿^江見舞^ニ参申候
同日^ニ平馬殿^江参昨日能登守様^{ニ而}之様子
申候、左藤玄知老へ金三百疋持参仕候様
去日被仰候得共、六年已前村川市兵衛参候

21

- 時ハ数寄足袋五束^ニ蛸百五十貝程持
参仕候由申上候得ハ左候ハ、金百疋持参仕候
様^ニ被仰候故たひ五足^ニ金百疋肴代と致
持参仕候
- 一 廿五日御公儀^江も御屋敷^江も不罷出
めくろしは方^江慰^ニ罷出申候、彦兵衛同道
廿六日^ニ吉田平馬殿^江参候得共不得御意
罷歸り候、御老中様方^江進物^ニ仕候箱懸
御目^ニ候得^者、箱之干鯛ふとさ能候得共、今
少いろ能様成可然^与被仰候故、御台所之

22

- 八三郎頼、色能干鯛詰申候、明日能登守様
罷出其歸り^ニ寄候^ニ様被仰候、角田川^江参詣仕候
廿七日
戸田能登守様^江八ツ時分^ニ参上仕、御寄合日^{ニ而}御用
其上火事^ニ付増上寺^江御見舞、暮六ツ
時分^ニ御歸り被為遊何之六郎左衛門殿と申仁之御

名字失念

- 取次^{ニ而}御目懸り候、明日御目見被為仰
付候之由御意被遊候、明朝五ツ時前^ニ御城
迄参上仕候様^ニ被仰付候、歸り^ニ直ク^ニ御上
屋敷吉田平馬殿^江参、右之様子申候

23

- 志摩様高木太左衛門殿^江も参、右之様子
申候、平馬殿より佐藤玄知^江拙者儀御頼御手
紙被遣候、平馬殿被仰候ハ明日御目見之時
之候、
定のしめ^{ニ而}可有儀^而御用意有之候哉と
御尋候故無之由申候得ハ、何とそ今夜中^ニ

調候様ニ被仰候故、帰り候而切立屋相段致候
得共今夜中ニハ調不申由申候故其分ニ致
廿八日ノ朝六ツ時ニ御上屋敷迄参、右之首
尾平馬殿江申候得ハのしめ無之候而ハ進間布
此方ニもゆだんと被仰候て平田作左衛門殿より

24

御かり候て拙者江御借シはさミ箱ニ入参候而
玄知江相尋候様被仰候

(被損廿カ)

■ 八日

朝六時ニ平馬殿迄参、右之首尾玄知より
平馬殿迄人参候ハ、牧野備後様前之御門
迄拙者御待可被成候間、拙者あれ迄同道致候
様ニとして、則其人同道致御門迄参候て、あれ
にて出相、それより玄知老同道仕候、其御門
より先之御門よりハ一度一度ニ下番迄拙者
儀御目見参上仕候町人ニ御座候と断

25

通り申候、是も玄知老御差図ニ而右
之首尾断申候、さてうら御けんくわと申
迄御献上之箱長持より出し板ノ上ニ
置候得ハ、玄知老より又坊衆御頼候而そてツ
間迄御進被下候而玄知頼被申候得ハ、参候
さて拙者儀ハ玄知同道仕そてつ間と
申江参居申候、玄知同道被致御座敷
抔見物仕候、御城ニ而ハ諸事玄知殿御差
図請申候、御目見より前ニ御献上箱玄知殿
御座敷持被出、其時拙者も参御目見申

26

上候所、見置 (虫損) ■ 事ニ候、さて

御目見ハ昼ノ九ツ時分ニ首尾能仕候

(婦カ)

■ りニハ御門ニ而も右之断ハ入不申候中こしニ

なり通り申はかり、それより御老中様
其外書付之通り、尤寺社御奉行様へ

今日首尾能御目見被為仰付有難
とて箱肴持参仕、其箱肴ハ上り

干たい

場ノヘリ取ノ上^ニ置、拙者ハ上^江上り右之
首尾申候、箱肴ハ番衆取次被申候

27

其日一日^ニ則此書付之通り廻り仕舞申候
吉田平馬殿^江直ク^ニ振舞^ニ参申候、尤
御屋敷^{ニ而}ハ志摩様高木太左衛門殿
御聞役人衆兩人御横目衆御兩人へ
参、今日御目見首尾能仕舞候とて
礼^ニ廻り申候、御奏者久世出雲守様

(虫損)

■ 九日

佐藤玄知殿一田木雲殿^江見舞申候
四郎五郎殿へ参、それより直ク^ニさいふの

28

天神^江参詣仕候、留守^{ニ而}加藤佐渡様
御礼ノ御使者在之候

(破損)

■ 月朔日

殿様^江御目見仕候、御奏者岩越
次郎兵衛殿吉田平馬殿太田弥次左衛門殿、尤
高木太左衛門殿御取持被下候、箱肴ハ
吉田平馬殿御肝煎被下御台所より
かり代

則志摩殿高木太左衛門殿御横目衆
御兩人御聞役人衆御兩人岩越

29

二郎兵衛殿^江御取持故首尾能仕舞忝
と申礼^ニ廻り申候

同日

松平弾正守様より為御礼御使者
有之候

同日

昨日加藤佐渡守様より御使ノ在之候

由吉田平馬殿へ申候得ハ御礼ニ参可然と
被仰候ニ付、則今日御使之御礼ニ御
敷台迄参、昨日ハめうかも無御座
御使被為懸御意忝奉存候、因茲

30

各々様迄御礼ニ参候と申、御帳ニ付
罷歸り候

(破損)

■ 月同日

松井五郎右衛門殿^江参候、夜四つ時分歸り候
うたい在之候、拙者留守ニ

秋本但馬様より御使者在之候

一 三日

秋本但馬守様^江昨日之御使者之

御礼ニ罷出申候口上ハ前之通り申候、御使之
口上書参申候、使ノ名重田半八と申仁

31

一 同日ニ志摩殿^江参候

壱州様御参府之御悦ニ参申候

吉田平馬殿^江松平弾正守様

秋本但馬守様より御使在之候間

今朝御礼ニ参候と申候、御障入在之候由

^{ニ而}不得御意候、平馬殿より御家来傳右衛門

口上^ニ被仰下候^者、いつ時分歸り候哉と被

仰候故壱岐守様^江御目見仕

次第ニ歸度と申候、然共又重^而参候

32

事不定ニ御座候間少逗留仕方々見物

仕度存候、然共かんりゆへ拙者儀ニ御座候

間永逗留仕候事皆様ニもいかゝニ思召候

哉、又早ク歸り候^而可然可被思召候哉、此段乍

恐御了簡ノ思召寄被仰聞被下候様ニ

傳右衛門頼申遣候得ハ、^尤^中其内

十日比ニ歸度と申遣候、平馬殿被仰下候ハ

尤^ニ候間、其段ハ少逗留在之候^而も不

苦儀ニ候間、勝手次第ニ仕候様ニ被仰候

又壱岐守様^江御目見候儀何時

33

^{ニ而}も成申事と被仰候、左久間市之丞殿
見舞申度と申候得へ、先不入事^{ニ候}
それも御目見之時御差図可在之候間
其節御見舞申様^ニと被仰候

一 四日^ニ

増上寺^江見物^ニ参候、御たまや拝申候
吉田平馬殿より手紙もらい参候
大久保八郎左衛門殿より御使者生鯛

五

式枚参候、阿部~~非~~郎五郎殿御使者

四

鰯式枚金三百疋参候、嶋甚兵衛被参候

34

一 四月四日

小谷伊兵衛殿見舞手紙、又伯耆ノ
江尾村小酒屋九兵衛弟ノ名いかゝ
申候かと申尋^ニ参候、則手紙参候
拙者返事^ニ右ハ清九郎と申候、只今ハ
睨と覚不申と申遣候、わか屋八兵衛より
朝音信、小谷助兵衛殿当来鯛在之候故
致音信、松井五左衛門殿へも同断
同五日雨天^{ニ而}何方^江も不罷出候
御用も無之候

35

一 同六日阿部四郎殿大久保八郎左衛門殿植木

易庵^江見舞申候、八三郎同道^{ニ而}しはい^江

振舞申候

一 同七日

御用無之候、朝ノ間平馬殿^江参
壱岐守様御目見江之儀奉窺由
参候得共不得御意、傳右衛門使^{ニ而}被仰候ハ
壱岐守様^江御目見之儀近日御逢^{ニ而}
も上ケ候様御才覚可被下由^ニ被仰候
上野ノ御たまや拝候哉^ニ付御手紙もらい

36

涼泉院^江御手紙もらい参候、御たまや
拝申候

■(破損)■
八日

木引町^江見物ニ参候、晩方ニ
壱岐守様之御目見之儀申平馬殿より
御手紙参候、則手紙在之候
御肴ハ箱肴之由、箱^{ニ而}代銀^{ニ而}濟候筈
也、明日壱岐守様^江罷出候筈候也

一
九日^ニ

朝ノ間吉田平馬殿^江乍御礼参候、則昨日

37

之手紙^ニ被仰四つ過^ニ壱岐様御屋敷
^江参候^ニ被仰聞候、うら御門より参束
佐久間市之丞殿^江参候得ハ、今日ハ少
気色ケ^{ニ而}罷有候得共御逢可被成由
にて御出、市之丞殿^江御目^ニ懸り申候
尤吉田平馬殿小谷伊兵衛殿御兩人より
手紙も参候、市之丞殿被仰候ハ、拙者
儀ハ気色ケ^{ニ而}得不罷出候間、御人可被
添由^{ニ而}則奥野祖右衛門殿被居候得ハ
祖右殿^ニ口上被仰拙者^江御付被成候

38

うら御げんくわ^江参上り居申候、御取次
役大口茂兵衛殿と申仁^江逢右之段
申候得ハ、市之丞殿と被仰合被置候間
御帳へ留置、壱岐守様^江被仰上由^ニ候
御肴之儀も市之丞殿と被仰合被置候由^ニ候
御肴之儀ハ殿様同事^ニ之由、箱^{ニ而}
代銀^{ニ而}相濟候、帰り^ニ市之丞殿大口
茂兵衛殿^江今日ハ御取持故首尾能御帳^ニ
付忝と申礼^ニ参候、祖右衛門殿へも礼^ニ参候
壱州様御聞役おばた市右衛門殿^ニ近付^ニ成候

39

則志摩殿、吉田平馬殿、小谷伊兵衛殿^江今日ハ

御願故

壱州様首尾能御帳ニ付忝と申礼ニ参候
小谷伊兵衛殿被仰候ハ竹嶋之絵図御入被
成候事在之候間持参致候ハ、出シ候様ニ

志摩殿被仰候儀^由被仰候、拙者返答ニハ

成程持参仕候得共、拙者手前ニ無御座

牧野清左衛門殿より借り参候、是ハ先年

殿様^江上り候絵図ノ控^{ニ而}御座候由

清左衛門殿被仰候と申候、伊兵衛殿被仰候ハ

40

去年戸田山城守様^江竹嶋ノ絵図御

上ケ被成候所ニ其控御役人衆ノ御手前ニ

無之ニ付御尋被成候由被仰候、帰り候^而

則手紙そへ絵図持せ遣し候、伊兵衛殿

御返事ノ手紙有之候、しばノ御屋敷見物ニ参候

一

十日

朝ノ間阿部五郎三郎殿^江御いとまこいニ参候

得共不得御意罷帰り候、角田川方^{江舟}

^{ニ而}五郎右衛門殿源藏致同舟遊山ニ参候

41

十一日ニ竹之丞しばい見物ニ参候帰り長谷川

喜兵へ、野口喜左衛門^江いとまこいニ参候、松江ノ

平野屋三四郎尋参逢申候、三四郎宿

新材木町内長谷川町米屋六兵衛たな

はん上長兵へと申者ノ所^ニ居申候

42 (白紙)

43 (白紙)

44 (白紙)

45 (白紙)

46 (白紙)

47 (白紙)

48 (白紙)

49 (白紙)

50 (白紙)

51 (白紙)

52 (白紙)

53 (白紙)

54

信物之覺

一 公方様^江 箱肴

殿様御台所^二而調

壹枚^二付四匁五分ツ、

干鯛拾五枚代六拾^三虫損分

箱 代九匁五分

一 大久保加賀守様へ 箱肴

干鯛拾枚

代拾三匁五分

箱代廿匁弍分

一 阿部豊後守様へ 右同断

55

一 戸田山城守様へ 右同断

一 土屋相模守様へ 右同断

右へ御老中様

一 柳沢出羽守様 右同断

一 牧野備後守様へ 右同断

右へ

56

一 秋本但馬守様 右同断

一 加藤佐渡守様 右同断

一 内藤丹波守様 右同断

一 松平弾正守様^{忠政} 右同断

右へ若御年寄様

57

一 本多紀伊守様 右同断

一 戸田能登守様 右同断

一 松浦老岐守様^{御月番} 右同断

右へ御寺社奉行

58

一 阿部四郎五郎様へ 鯉百箱入

羽二重弍疋

一 同権八様へ

馬せん沓懸

一 御同人様奥様へ

ちりめん二巻

但^一白^一
一赤

一 龜山庄右衛門殿

足袋五足箱入台

焼杓三本入扇子包□

59

一 勝野六太夫殿

扇子三本入但きり

一 阿部忠右衛門様

馬せん沓懸

一 大久保八郎右衛門様

右同断

すき

一 佐藤玄知殿へ

足袋五足箱入台乗せ
金子百疋但肴代

一 一田甫雲殿へ

すき足袋五足
箱入台ニのせ

60

但今度初^面近付^ニ成参申候

一 殿様御屋鋪分

御台所より借り
代金沓歩

一 荒尾志摩殿

鯉五拾入箱肴
但箱ハもミノ木

十六嶋苔式把台ニ乗せ

一 御同人内
小谷助兵衛殿

すき足袋五足箱入
台ニ乗せ

61

一 御聞役人
吉田平馬殿

すき足袋五足

御聞役人
小谷伊兵衛殿
箱入台ニのせ
鯉三拾台ニのせ
右同断

御横目役
川瀬八右衛門殿
すき足袋五足
箱入台ニのせ

右同断
大田弥次左衛門殿
右同断

62

御留守居役
伊庭七郎右衛門殿
すき足袋五足
箱入台ニのせ

御おもり役
高木多左衛門殿
右同断

御留守家老
香川内膳殿
焼杓五本入扇子
台ニのせ

63

御そうしや役
片山五兵衛殿
きり三本入扇子
台ニのせ

右同断
岩越次郎兵衛殿
右同断

御聞役衆代々ノ下役人
千田作左衛門殿
右同断

御台所上役人
國留作左衛門殿
国元より之出入先キニ付別而

此度も御苦勞ニ付右同断
是ハ御献上ニ仕候干鯛箱共頼候故其上平馬殿参候而
可然と被仰ニ付参候

64

御社筆役
木村豊右衛門殿
すき足袋五足
箱入台ニのせ

是ハ米子より拙者心安ク仕候故
見舞申候其上御進上ノ箱ノ書付杯仕り候御申候

一 浅田三郎右衛門殿
桐三本入扇子箱
台ニのせ

是ハ浅田衛士殿より拙者事
頼被下候故見舞申候

一 鹿野三郎兵へ殿
是ハ□助殿御□息
右同断

一 木村治部右衛門殿
米子人故
見舞
右同断

65
一 不破伴藏殿
御銀奉行衆其上伊木所左衛門殿拙者事
頼被下候故見舞
右同断

一 拝原兵左衛門殿
御裏判是も右同断
右同断

一 野間造酒之介殿
是も荒尾儀太夫殿拙者事御頼被下候故
見舞申候
右同断

一 赤座角右衛門殿
是ハ造酒之助殿御相役故のこされす参候
右同断

66
一 月坂八三郎殿
上下沓具
是ハ拙者共一門也、其上切々音信預り
遣残上下在之候故任遣申候

一 奥野祖右衛門殿
きり三本入扇子一箱
同断

一 松井五郎右衛門殿

一 柴山甚内殿弟也
同断

一 井上彦兵衛殿
すき足袋式足
是ハ何角肝煎被申候故

67

一 湯浅四兵衛殿_江

同三足箱入
是ハ外聞故

一 大屋清太郎殿_江

上下一具

一 是ハ半左衛門子也

京_{ニ而}拾三四匁位也

紋ハこくもち

一 同 喜左衛門殿

同断

一 是ハ半左衛門弟、今ハ喜左衛門世也

一 同人御内儀_江

金百疋

一 是ハ参懸り_ニ喜左衛門_江参、三日か間喜左衛門_ニ居候_而
上下ざうさ_ニなり候故

68

一 長谷川喜兵衛殿

焼杓三本入扇子一箱

一 わく屋八兵衛殿

たい_ニのせ
きり同断

一 是ハ祖右衛門殿拙者_江用事在之候ハ、肝煎
くれ候様_ニと頼被申諸事無心申候故

一 小笠原宗易殿

きり同断

一 是ハ九右殿前_ニ心寄り被致仁ノ由承候故参候

69

一 植木易庵_江

焼杉五本入扇子

一 佐久間市之丞殿_江

□_{かつを} 三連也
たい_ニのせ

一 壱州様_江

箱肴

御台所より借り
代金

一 帰り候_{ニミ}やけ物遣覚

一 大和様_江

御鷹緒式かけ

一 修理様_江

御立聞式かけ
拾匁かけ糸拾匁_ニ付
代銀七匁

一	志摩様 _江	同断	
70	次良作様 _江	つゝミノしらへ大小二懸	
一	式部様 _江	代	
		立聞式懸	
		拾刃かけ代	
一	将監様 _江	同断	
一	日向様 _江	同断	
一	大隅様 _江	進物納り	
		不申戻り申候	
一	伊賀様 _江	立聞式懸	
71		八刃かけ代	
一	大蔵様 _江	同断	
一	山崎主馬殿	焼杓五本入扇子一箱	
	舟奉行也	台ニのセ	
一	村上治部右衛門殿	同断	
	かんせう場		
一	築田彦四郎殿	同断	
	裏判		
72	(白紙)		
73	(白紙)		
74	(白紙)		
75	(白紙)		
76	(白紙)		
77	(白紙)		
78	(白紙)		